

# 大津百町瓦版

大津・町家・まちなか・いろいろ情報

新年号 [No. 46]

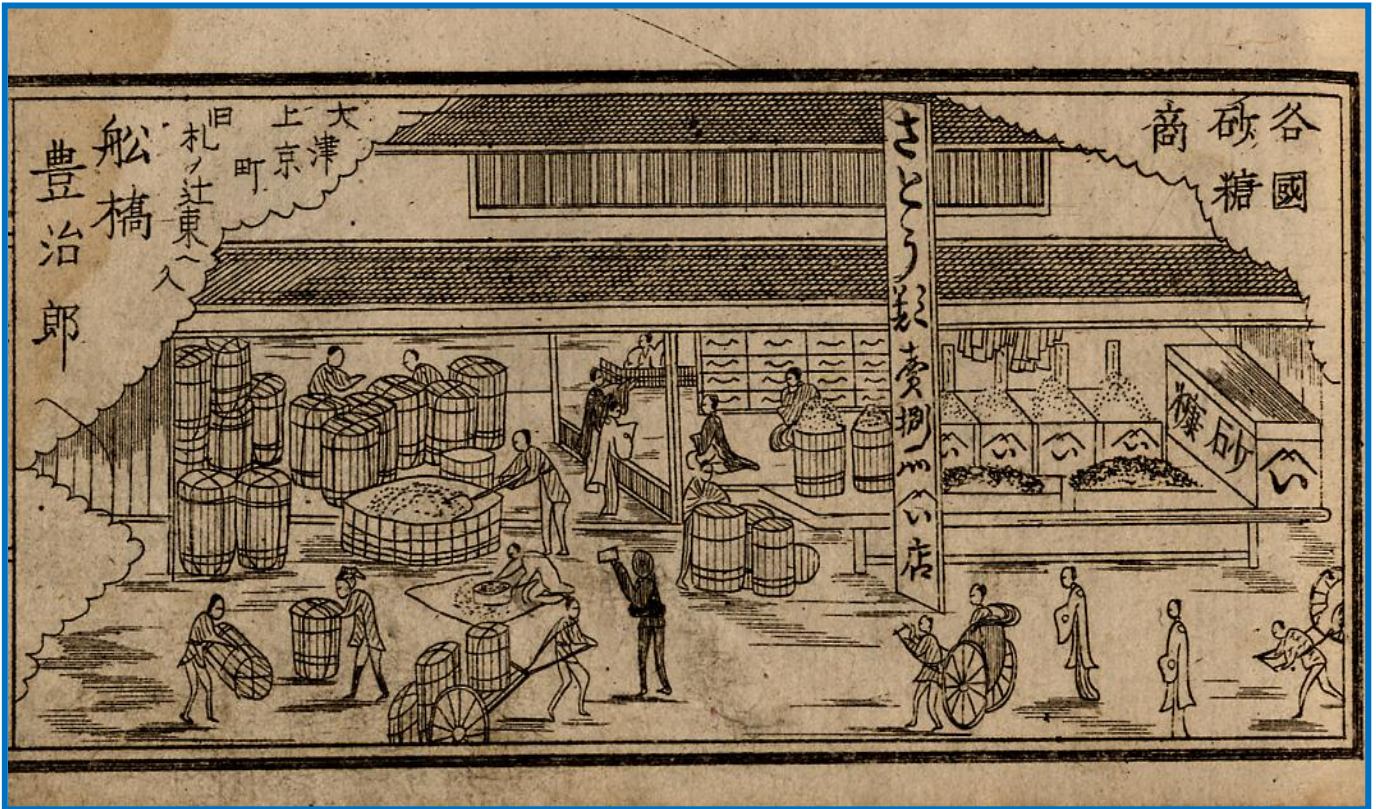
2021年 1月

発行 大津の町家を考える会

大津市中央1丁目8-13

TEL・FAX 077-527-3636

Email: otsu.machiya@gmail.com



## 『豪商銘工魁』

(じょうしょうめいこうさきがけ)

旧大津百町は江戸時代には東海道随一の町であったことは、この『大津百町瓦版』でも何度か触れていますし、多くの方がご存じだと思います。

この町の賑わいは江戸時代から明治にかけて引き続き、多くの商店(酒屋・両替商・米穀商・干鰯屋・醸造業者)が業種組合を作り商いを繰り広げてきました。

鉄道も早くに京都―大津間に開通(明治十三年[1880])、びわ湖には蒸気船一番丸が塩津―大津間に就航(明治二年[1869])、長浜間鉄道連絡船就航(明治十五年[1882])、びわ湖疏水による運河輸送(明治十三年[1890])、また、ロシア皇太子の大津訪問(明治四年[1891])なども、まさにびわ湖を要する中心都市大津だったからこそです。

明治十二年(1879)東京・大阪に続き、大津に全国三番目の商法会議所(現商工会議所の前身)ができました。

## 『琵琶湖涯商工産品録』

こうした大都市であるからこそ、明治一七年『琵琶湖涯商工産品録』という冊子が発行されました。これは大阪・堺の川崎源太郎という人物が発行したもので、当時全国の主要都市でも同様な銅版画による図録を手掛けていたようです。

これは副題を『豪商銘工魁』と云い、最初に近江八景と三井寺の挿絵があつて、大津百町内の商家や料理旅館、内国通運大津分社や太湖汽船といった会社など全五三軒分の店先の風景が精密な銅版画で紹介されています。

次ページでも銅版画による商店を掲載しています。商店としては残って無いかも分かりませんが、上図は船橋砂糖商店が詳しく書かれていますので、もしかしたらここのお宅かも？と分かることがあります。

【会員 雨森】